

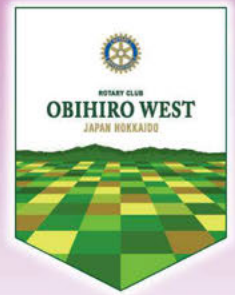


帯広西ロータリークラブ

第2426回例会

会報

2023.4.6



■RI第2500地区スローガン■

ともに紡ごう！
ロータリーの未来へ

■クラブ・テーマ■

新たな半世紀に向かって…RESTART

米山記念奨学生紹介



ファトヒ・アテフェさん

4月誕生祝

笹井 祐三	会員	1944.4.27
渡部 省一	会員	1947.4.15
森 房明	会員	1960.4.25
増井 信也	会員	1967.4.24
工藤 正宏	会員	1968.4.23
熊切 宏樹	会員	1968.4.25
千葉 清秀	会員	1977.4.26



もあまりパツとしません。テーブルが一緒の川田会頭さんの背広をご覧下さい。縦縞の男の流行りでしかもダブルです。とてもお洒落です。私も86歳になりましたけれども今日は赤いネクタイをしてこれからも可愛いおじいちゃんになるように頑張ります。ぜひ、60歳を過ぎたら頑張ってください。そして奥さんを可愛がってください。60歳、70歳を過ぎてくるとだんだんと男は粗大ゴミになるそうですから邪魔にならないようにして下さい。一生懸命に奥さんを今から大事にしておくとな年を取ったら大事にもらえる。そして、60歳を過ぎたら男は一生懸命に貯金をしましょう。お金があると小遣いもらえるかな？と思って子供や孫がやってきます。私も結婚して60年になります。60年間、よくもちました。こんなに長く女房に支えてもらって本当に嬉しく思います。それでは、誕生と結婚を祝って乾杯！

4月結婚祝

笹井 祐三	会員	1976.4.23
太田 一也	会員	1970.4.12
佐々木嘉晃	会員	1982.4.25
高田 晃一	会員	1984.4.15
谷脇 正人	会員	1990.4.14
天野 清一	会員	1990.4.22
山口 貴可	会員	1991.4. 6
若林 剛	会員	1991.4.20
上野 裕司	会員	1993.4.19
西藤 博行	会員	1994.4.15
松原 宏樹	会員	1997.4. 5
板倉 利幸	会員	2012.4. 7
植本 祥平	会員	2015.4.20

会長報告

奥 敏則 会長



皆さんこんにちは。会長報告をいたします。先ず、先程も幹事のご紹介がありましたように、今月から2年間にわたり、米山奨学生としてファトヒ・アテフェさんをお世話することになりました。帯広畜産大学の博士課程で獣医学を専攻されております。カウンセラーは、今日は来ておられません、金澤宗一郎会員です。皆さん宜しくお願いたします。また、ファトヒさんも是非ロータリーを楽しみながら、勉学に励んでください。さて、残念なお知らせをしなければなりません。もう既にラインなども回っていますので、ご承知の方もいらっしゃると思いますが、奥田頼昌会員が今朝お亡くなりになりました。ここ数年は、体調がすぐれなかったようですが、まさかこんなに早く亡くられるとは思っていませんでした。確か先月には、例会にもお見えになっていたと思いますが。思い返せば奥田会員とは、40年以上の付き合いになります。まだ、森設備さんに努めておられたころからです。家を継がれてからも、表周りの工事は、奥田さんに頼むことも多く、よく現場で一緒することもありました。ある元受けの協力会では、私が会長で、奥田さんが副会長というような時もあり、いろいろと助けていただきました。ある現場の年も押し迫った12月の末だったと思いますが、スーパーの現場で工期もあと少しということで、

乾杯

酒井 忠之 会員



こんにちは。今日は誕生日祝いと結婚祝いの乾杯を任されましたので一言、挨拶いたします。誕生祝いですが、若いうちは早く二十歳になってお酒を飲んで色々なことができるとそれを楽しみに、毎日毎日非常に1日が長かったような気がします。当クラブの会員の平均年齢が、約60歳の選齢でございます。選齢を過ぎますと日にちが短くなってきます。朝起きたなあとと思うと、すぐに寝床に着くような非常に早く1日が始まり終わります。身体の方



会長 奥 敏則 副会長 高田 晃一 会場監督理事 長平 圭太 発行：広報委員会 (副)板倉 利幸
幹事 森 房明 副会長 河西 智子 プログラム委員理事 菊池 俊博 委員長 河合 敏 (副)所 輝泉



例会日/木曜日 12時30分～13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル東館3階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033

当時は徹夜で現場も動いておりました。そんな時に限って、外構工事をしていた業者さんが、極寒のしかも夜中に水道管を切ってしまう、凍結で浸透していかない水は、道路へと流れていくほどでした。当時は、携帯電話などない時代でしたので、公衆電話で水道の業者さんを探しましたが、当然夜中では誰も出てくれません。しつこく奥田さんの会社というか家の方へ電話をかけましたら、なんとか電話に出てください、夜中の2時ごろだと思いますが、現場に駆けつけてくださいました。作業服が寒さでカチコチになりながらも直していただきました。そんなことが、今も奥田さんのことで思い出されます。また、実は、共にロータリークラブから声をかけていただき、帯広西ロータリーも一緒に入る予定でした。しかし、私の出張で、奥田さんが1カ月ほど早く入会したという経緯もあります。また、チャーターメンバーで会友でもおられます元帯広市長の田本憲吾さんも4月1日にお亡くなりになりました。昨年10月の50周年の時は、歩くのは大変そうでしたが、元気なお声で「おめでとうございませう。」と言っていました。奥田さん・田本さん共に帯広西ロータリークラブに色々なものを残して旅立たれました。是非これを残ったメンバーで受け継ぎ、更に素晴らしい西ロータリークラブへとなるように受け継いでいきたいと思っております。お二人に、感謝と哀悼の誠をささげるために、これから黙とうをさせていただきます。以上で会長報告といたします。

会務報告

森 房明 幹事

①帯広南RC、創立記念夜間例会開催のご案内
日時 4月17日(月)午後6時30分
場所 北海道ホテル



- ②帯広西RC、夜間例会開催のご案内
日時 4月22日(土)午後6時30分
場所 北海道ホテル
※アルコールが出ますので、運転をお控えください。
※尚、4月20日(木)の繰下げ例会と致します。
- ③帯広北・帯広東・音更、3RC合同例会
日時 4月25日(火)午後0時30分
場所 ホテル日航ノースランド帯広
※尚、帯広北RC、4月28日(金)の繰上げ例会と致します。
- ④帯広RC、夜間例会開催のご案内
日時 4月26日(水)午後6時30分
場所 ホテル日航ノースランド帯広
- ⑤帯広南RC、5月1日(月)の例会は、休会と致します。
帯広東RC、5月2日(火)の例会は、休会と致します。
帯広RC、5月3日(水)の例会は、祝日のため休会と致します。
帯広西RC、5月4日(木)の例会は、祝日のため休会と致します。
帯広北RC、5月5日(金)の例会は、祝日のため休会と致します。
- ⑥例会終了後、定例理事会を開催致します。

委員会報告 次年度理事会 立崎 貴之 副幹事

本日18時30分より次年度第1回クラブ協議会を開催します。
理事、役員、委員長の皆様は出席をよろしくお願いいたします。



◆プログラム

川田 章博 米山記念奨学委員長

「1945年8月22日」



皆さん、こんにちは。本日の例会は米山奨学委員会の担当になりましたけれども、実は少し米山奨学から外れて、国際的なお話を差し上げたいという具合に思っています。

タイトルが1945年8月22日です。8月22日に何があったか知っていますか？今、3人にお聞きしましたが全然分からないようなので、三択を示したいと思います。この8月22日、1945年、これが1、2、3とあります。「三船殉難事件」だと思ふ人、あるいは「占守島の戦い」だと思ふ人、「ソ連択捉島への侵攻」だと思ふ人、いかがですか。1番の「三船殉難事件」だと思ふ人は、手を挙げてみてください。必ず三択の中で手を挙げてください。いかがですか。誰かいらっしゃいますか。では、2番の「占守島の戦い」だと思ふ人はいますか。パラパラです。3番、「ソ連択捉島への侵攻」だと思ふ人はいますか。ほとんどがそうですね。これについては、後で話をさせていただきたいと思っております。今日なぜこのようなことを、ロータリーの例会の中で皆さんにお話しをしたいかということ、実は私は北方領土復帰同盟のこの支部長をやっております、今年8月22日にその支部を含めて、帯広商工会議所も講演会を持ちたいという具合に考えています。北海道民が絶対知らなければいけないことについて、この講演会を持ちたいと思っております。特にこれに興味を持った方は、ぜひご参加をいただきたいというのが、今回の狙いです。まず一つには、ウクライナについて今日話をしたいと

思います。ウクライナの相手がロシアでありますから、ロシアという国がどういうことを行ってきたかということ、ほんの少しだけお話をさせていただきたいと思っております。これが分かると、ウクライナはどれだけ頑張っているのかということが、理解してもらえます。今からだいぶ前になりますけれども、2001年、私はキーウに行きました。昔はキエフと言っていました。このキエフ時代に、実はこの町に行きました。観光旅行に行くはずだったのに何を間違ったか、ずっとウクライナに在る間、大学の先生である「おばちゃん先生」の講義を受けまして、このウクライナについての歴史を学ぶことになりました。ウクライナで行ったのはマーケットと、それからストリートで絵を売っている所に行って、絵を1枚買ってきただけです。オデッサも行くつもりだったのですが、そのおばちゃん先生が放してくれませんでした。歴史もいろいろ学ばせてもらうのはいいけれども、父さんの悪口と息子の悪口に付き合わなければなりません。実はこの時、学んできたことが、本当に活きたなというのは、今回のロシアの侵攻事件です。そういうことについて少しお話をしたいと思っております。

これが今ウクライナの各町の位置図です。これは昔の名前で書いていますが、今はウクライナ語での名前が変わっています。このキエフに行ったわけですが、当初この侵攻は、ウクライナ側はロシアは必ず東から来る、だから今のルハンシクと書いてありますがここから来るということで、当時の兵力は全部この周辺に

置いていました。このヨーロッパの中で、実はウクライナの兵力というのは、当時ロシアに次ぐ兵力を持っていました。これはあまり知られていませんが、結構一生懸命軍隊を増強していました。ここから来ると思ったらとんでもないことに、ベラルーシで軍事演習をしたついでに、このベラルーシ側から攻められています。72時間で、このキエフを取るというのが、ロシア側の作戦でした。ところが、何が起こったかというところ、最初は非常に調子が良かったのですが、後で問題になったのは、実は大量の戦車ならびに車両を、ベラルーシ側からキエフに向かって侵攻させました。そこで行ったのが、橋の爆破です。この川に架かる橋を全部爆破しました。従ってどうなったかということ、それ以上一番先頭車両が入れなくなってしまいました。入れなくなったから当然、後ろからはどんどん来ます。これは戦車としては一番やってはいけないことです。戦車というのは、必ず並列で行かなければいけません。縦列隊というのはあり得ないのですが、そういうことをやってしまったがために、キエフは72時間で陥落しませんでした。この時に、皆さんも知っているとおおり、恐らく前のウクライナの大統領だったら、もう外国逃亡をしていたのではないかと思います。今のゼレンスキーという大統領は、地下の大統領執務室から地下に下りる所があるらしいのですが、そこに入ってとにかく頑張りました。それからウクライナの市民が、とにかくロシアに対してもう出ていけということで、戦車の前にも立ちふさがって頑張ったということです。それを見ていて閣僚たちは、腹が決まったという話があります。ウクライナの町のソフィア大聖堂と言いますが、これは1037年に建立された聖堂です。この上に丸く尖っているのが、丸くて上に十字架が付いているのは、われわれが見ている普通の教会と違います。これはロシア正教の教会です。ロシア正教というのは、ロシアだけの正教ではありません。これはウクライナのロシア正教、それから例えば、ギリシャ正教もあります。ですから各国々には、正教というのがあって、カトリックとかプロテスタントとかとは違います。次に見せるのは世界遺産群ですが、これはキーウの町にあります。次は、ペチェールシク大修道院です。このペチェールシク大修道院というのは、ロシア正教の大本山であります。これはウクライナの本山です。このような建物があります。これも世界遺産です。これはアンドリーイ教会です。これはかつてロシアにエリザヴェータという女性の皇帝がいましたが、彼女のために建立された教会です。これは独立広場です。ロシアのヘリコプターが飛んでいる映像がありました。これは独立広場で、中心街です。聖ミハイール修道院です。ちょうど広場側からこの修道院を見たものです。これはキーウの町のシンボルと言ってもいい建物です。こういう世界遺産群がある、きれいな町です。この町に72時間でキーウの侵攻を図りましたが、今回占領がうまくいきませんでした。72時間以内にゼレンスキーはどこかへ亡命するというのが、プーチンの考え方だったようです。

ここからロシアについて話をしたいと思います。ここからの話をよく理解していただくと、どうしてウクライナの人々は、あれだけ頑張れるのかというのがよく理解できます。これを知らずして、ウクライナがどうか、ロシアがどうかのというのは間違いだと思っと思っています。まずソ連の話です。この人を見たことがあると思いますけれども、これはレーニンです。ロシアは、これ以前は皇帝の支配でした。皇帝というのは、王様のようなものでもあります。ロシア皇帝の支配下であったのを、要するに民衆に取り戻すということで社会主義、皆さんも聞いたことがあるかもしれませんが、マルクス主義でこれを具現化したのがこのレーニンです。1917年にロシア革命というのが起こっ

て、これがロシアもちろんそうですが、ウクライナ全土にもこれが広がり、いろんな所で内戦状態になりました。この中でレーニンが率いる政党が優勢であって、最終的にこのレーニンが率いた政党がソ連を誕生させることになります。レーニンは、お兄さんがロシア皇帝によって殺されています。そういったことで、この社会主義に大きく傾倒したという話があるわけです。これはレーニンの片腕と言われた、スターリンです。このスターリンが大問題です。レーニンの死後、ソ連を支配することになるスターリンです。何を言いたいかと言いますと、1921年から22年、ロシア全土において大飢饉になります。もちろんウクライナも飢饉になります。この時に何が起きたかということ、実は今のロシアが、モスクワが、食料を全部ウクライナから引き揚げます。ということは、どういうことになったかと言いますと、みんな食べる物がなくて死んでしまったということがありました。年数を見てもらったら分かりますが、レーニンがソ連を誕生させたばかりの頃です。コルホーズとかソホーズという話を聞いたことがあると思いますが、コルホーズというのは集団農場、これは自由農場です。その他にソホーズというのは、国立、国有化の農場です。そうするために何をやったかということ、1932年から33年にかけて、ウクライナから全部食べ物をモスクワに持って行ってしまいました。食べる物が全然なくなったわけです。これがスターリンによってもたらされた「ホロドモール」という言葉で象徴されますが、人工的な飢饉、要するに食べ物を奪ってしまいました。ウクライナは食物の宝庫ですから、ここから取ってしまったということです。死者数は400万人から1,000万人の間です。一体、どのくらい亡くなったか分かりません。こういうことが行われたということです。「赤い闇スターリンの冷たい大地」、これは2019年公開の映画です。これはベルリン国際に出したものです。これを見れば、どんなことが行われたかというのを理解できるのではないかと思います。このことを頭に入れて、NetflixかAmazonプライムか何かで観られると思うので、ぜひ観てもらいたいと思います。次に第2次世界大戦の話に移りたいと思います。第2次世界大戦でドイツがソビエトに侵攻したのが、1941年の話です。上の点々としている所がウクライナです。こういう具合にドイツ軍が行くわけです。何をやりたかということ、ここにバクーというのがありますが、これがバクー油田です。当時、第2次世界大戦の最中、最後のほうになってくると、ドイツは明らかに油不足になります。このためにバクー油田を押さえるためであろうことか、ウラル山脈を越えて、とにかくここまで行きたかったのです。それでウクライナに入って、ウクライナを蹂躪した後に、このロシア区域に入ってきます。ドイツ軍がウクライナに入りましたところ、実はいつもロシアにやられて腹くそ悪いものだから、ナチが来た時にウクライナ人はすごく喜びました。ナチに入って、ロシアと戦いたいという人も出てきました。しかしながら、当時のウクライナはソ連邦だから、当然のことながら、ソ連のロシア側の人間として、ソ連邦の一員としてドイツと戦ったので、自国民同士戦ったという、すごく悲しい歴史があります。上のほうにハリコフという町があります。これは聞いたことあると思いますが、これはハルキウと今言っていますが、これが最大の激戦地になりました。それを越えて、最終的にはスターリングラードという所で、ナチは負けるわけです。冬将軍といわれ、ナポレオンも負けたスターリングラードです。今はスターリングラードと言いませんが、ドイツ軍はここまで行ったわけです。ウクライナ人が第2次世界大戦によって亡くなった人数は、はっきり分かっていません。一応、800万人から1,400万人の間と言われております。第2次世界大戦で日本人が亡くなったのが、

310万人とされています。軍人が230万人、民間が80万人です。これはほぼ合った数字です。それから比べると、ウクライナで亡くなっている人数は、800万人のわけがなく、軽く1,000万人以上は超えていると思います。ウクライナでは第2次世界大戦中亡くなった人間は、5人に1人とされています。こう歴史があってロシアの下にあったら、今現在、ウクライナがどうなるかというのは、ウクライナの人間たちはもう分かっているわけです。自分たちは使い捨てにされるし、いろんなことが起きてくるという、その後の幸せはないということが分かっていますので、今回の戦争が起きているということです。また映画の話になりますが、1970年に公開したソフィアローレンとマストロヤニの2人による「ひまわり」という映画があります。この「ひまわり」の映画が撮られたのがヘルソンという、よくテレビを見たら聞くかもしれませんが、このヘルソン州だと言われている。この一面のひまわり畑の下には、とにかく累々たるウクライナ人の死骸があると言われている。ここからまとめになりますが、従って、ウクライナ人はロシア、ソ連に虐げられた歴史がずっとありまして、今日は全部言えませんが他にもたくさんあります。そういうことで簡単にはギブアップしません。もし占領されたら、暗黒の時代が待っているということです。

次は占守島の戦いです。この占守島の戦い、これは樋口季一郎という中将がいるのですが、この中将がいたおかげで、実は日本というか、北海道が助かりました。この人に何が起こったかと言いますと、実は終戦後、第5方面軍に大本営から戦闘中止命令が出たにもかかわらず、スターリンがトルーマンに北海道北部の占領を要求しました。北海道北部、ちょうど留萌から釧路に線を引っ張ったラインです。これが本当に奇跡的に、実は助かったということ北海道の人間は知りません。占守島というのは、一番上のほうの島です。カムチャッカ半島から一番上のほうで戦いました。8月18日に攻めてきました。ソ連軍が北海道占領作戦を中止したのが22日です。択捉島が取られたのが28日です。その戦いで日本軍の死者が600名、ソ連軍の死者が3,000名と、ソ連はこの戦いで完璧に負けました。これがあったために、択捉島への進行が遅れました。択捉島への侵攻が遅れたために、実はこの北海道はソ連に取られませんでした。もしかすると旭川は、今はソ連側だったかもしれません。

そして、8月22日ですけれども、悲劇が起こります。三船殉難事件です。ポツダム宣言を受諾したのが15日、これは終戦です。樋口季一郎が、とにかく南樺太にいる軍隊、これは88師団ですけれども、これに絶対戦えと言いました。これを戦わないと北海道を取られるということで言いました。当時はギブアップしろというのが、大本営の話でした。樺太の長官は児童と女性などを船で本土へ送還しました。これが実は8月22日に沈められた船、小笠原丸です。大泊から稚内に寄港して小樽に向かいました。横綱の大鵬、後の大鵬は稚内で降りたがために助かりました。増毛沖でソ連の潜水艦の攻撃により撃沈されます。これで638名死亡して生存者は62名です。このようなことが起きました。これが小笠原丸です。もう一つ、第二号振興丸です。これが同日の5時13分、留萌沖で攻撃を受けて大破します。229名、行方不明者171名、合計400名ということで、ほとんど死亡です。これが泰東丸です。同日9時52分に白旗を上げていても、小平沖で攻撃を受けて、これも沈没して670名が死亡しました。合計1,708名の死亡です。

私が許せないのは、このことをほとんど北海道民に知らせていません。この三船殉難事件を、みんなが知らないということです。碑が建っていますが、これは留萌沖の小平の鬼鹿の所にあります。殉難事件の慰霊

の碑です。小笠原丸の受難碑は増毛の所に建っています。こういう事件が起きています。しかし、これを北方領土返還の名目として、かつてソ連とかロシアに気を使うあまり、こういった事実を全然、政治家たちは言っていない。われわれ道民は少なくとも、危なくこの帯広の隣に国境があったかもしれないという、こういう事実はきっちり歴史に伝承して書いて、次の時代に知らせるべきだということです。ロシア、ソ連がどういった国だったかということまで。終戦においてはイギリスも、アメリカも即座に戦闘を中止しています。それをソ連はギリギリで侵攻してきて、日ソの条約があったにも関わらず、条約を勝手に破棄して、スターリンの野望で北海道を取ろうということになったのです。ロシアのウクライナ侵攻を受けて、こういった国がどういった国なのかということをよく理解しながら、北海道民、少なくともわれわれはかつての歴史に学びながら、しっかり考えていかなければならないと思います。そういった歴史認証をしっかりするために、8月22日に、こういった時の記憶をしている、あるいはこれに関わってきた関係者を呼んで、しっかりと皆さんにお話をさせていただきたいと思って、今日、その前哨として皆さんにお話をさせていただきました。少なくとも興味を抱かれた方は、ぜひその講演会に来ていただきたいと思います。知らなかった方は、ネットでも何でもいいですので調べてみて、私の言っていることが正しいか正しくないかということ、しっかり見ていただければ本当にありがたいと思います。紹介した2つの映画も見ていただきたいと思います。人ごとという具合に考えないで、北海道民にとっては本当に危うい出来事でした。この樋口季一郎というのはどんな人間だったかと言いますと、彼は満州特務機関長だったのです。当然、満州の特務機関長ですから、戦争犯罪人として裁かれて然るべきでした。しかし、彼が裁かれなかったのは、実は満州にいる時に大変な数のユダヤ人を逃がしたのです。杉原千畝はユダヤ人を逃がしたということで、みんな知っています。しかし樋口季一郎は表に出ることはありません。なぜかと言いますと、彼は陸軍だったからです。陸軍は戦後、徹底的にやられました。なぜかと言いますと、インパール作戦とか、無駄な戦死者をたくさん出したからです。おまけに、ソ連は絶対的に彼の首を取りたかったのです。ですから、彼は一般人として紛れて、軍人としての過去を捨てました。従って、助かりました。ニューヨークのユダヤ人協会から「絶対に樋口季一郎だけは助けろ！」と、要するに「戦争裁判にかけな！」という強烈な運動があって、彼は裁判にかけられなかったのです。中将でありますし、ソ連をやっつけたわけですから、当然戦犯として裁かれたはずですが、そうはなりません。そういった歴史認証をしっかりしながら、われわれは生きている今日、こういったところをしっかりと考えていただければ、本日私がお話しをしたかがあると思います。米山から外れて大変申し訳ありませんが、時間になりましたので、以上で話を終わりたいと思います。どうぞ、8月22日、よろしく願いいたします。以上です。